

3級損害保険登録鑑定人

保険・一般常識 試験問題用紙

(2021年1月)

注意事項

1. 試験責任者の指示があるまで開かないでください。
2. 解答用紙は試験問題用紙の最初の頁に入っています。試験開始の合図があったら解答用紙があることを確認してください。解答用紙がない場合は直ちに申し出てください。
3. 解答用紙には受験番号、氏名、受験地を必ず記入してください。
受験番号は6桁の数字を左の欄から順に正確に記入し、その数字と同じ箇所をマークしてください。記入漏れや間違った受験番号を記入すると採点できませんので、解答した内容はすべて無効（得点なし）となります。
4. 解答はすべて解答用紙に記入し、解答用紙のみ提出してください。問題用紙は持ち帰って結構です。また、解答を解答用紙以外に記入しても無効となります。
5. 解答は、解答用紙の該当する問題の解答欄をぬりつぶしてください。
6. 1つの問題に指定数を超えるマークをつけた場合、その問題は0点となります。
7. HBの鉛筆またはHBの芯を用いたシャープペンシルを使用してください。HBの鉛筆またはHBの芯を用いたシャープペンシル以外（万年筆、ボールペン、サインペン、色鉛筆等）は使用不可です。
8. 訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムで完全に消してください。消し方が不十分な場合には解答が正しく読み取れないことがあります。修正液等、プラスチック製消しゴム以外は使用不可です。
9. 解答用紙の読み取りは機械処理をしますので、折り曲げたり、汚したり、記入欄以外の余白および裏面には何も記入しないでください。
10. 試験時間は正味50分です。
11. 試験問題の内容に関する質問は、いっさい受け付けません。
12. 試験時間中の私語は禁止します。
13. 資料等の使用はいっさい認められませんので、筆記用具、電卓以外はすべてしまってください。
14. 試験時間中は、携帯電話・スマートフォン等の通信機能・記憶機能を有する機器の使用は、時計として使用することを含めていっさい認められませんので、あらかじめ電源を切っておいてください。
15. 「受験票」および「写真が貼付されている公的本人確認書類」は机の上の見やすいところに置いてください。
16. 問題用紙、解答用紙の印刷に乱丁・落丁があれば申し出てください。

マークシート方式による正誤式または選択式の問題です。解答は解答用紙の該当するマークを塗りつぶしてください。

【問題 1】

次の1～8の記述は、火災保険の「物件の種類と判定」について述べたものです。その内容が正しいものには○で、誤っているものには×で、それぞれ答えてください。

1. 住宅に付属するタンクやサイロは、住宅物件である。
2. 住宅建物内に家財以外の動産を一時的に収容する場合、住宅建物、家財および家財以外の動産は、いずれも一般物件として取り扱う。
3. 家財を備えていない季節的に住居として使用される別荘は、住宅物件となる。
4. 損害保険代理店の事務所兼用住宅は、一般物件となる。
5. 寮、寄宿舍および下宿屋は、住宅物件となる。
6. 住宅物件において、屋根がコンクリート造である建物の屋上に設けられた屋上建物（本屋建物の屋上部分に本屋建物と主要構造部を異にして建築された建物）は、本屋建物とは別個の建物として取り扱うことができる。
7. 住宅物件（一般建物）の建物の構造級別の判定において、鉄骨造の共同住宅はM構造と判定される。
8. けい古事（ピアノ、生花、茶道、裁縫など）や療治（はり、きゅう、マッサージなど）を内職程度に行っている住宅は、住宅物件を適用する。

【問題2】

Aさんは、店舗専用建物に保険金額3,000万円の店舗総合保険契約を締結していましたが、この建物から火災が発生し、同建物に2,000万円の損害を被るとともに、この火災の延焼により、隣家3世帯の住宅建物3棟のそれぞれ一部を焼失させてしまいました。

この場合に支払われる次の1～3の保険金について、下の選択肢から最も適切な金額をそれぞれ1つずつ選び、その記号を答えてください。

なお、火災発生時のこの建物の保険価額は4,000万円とします。また、算出した保険金の額に1万円未満の端数が生じた場合には、千円の位を四捨五入して万円単位で答えてください。

1. 支払われる損害保険金は、いくらになりますか。
2. 支払われる臨時費用保険金は、いくらになりますか。
3. 支払われる失火見舞費用保険金は、いくらになりますか。

《選択肢》

ア.	0円	イ.	20万円	ウ.	30万円	エ.	40万円
オ.	60万円	カ.	100万円	キ.	200万円	ク.	300万円
ケ.	500万円	コ.	563万円	サ.	770万円	シ.	1,560万円
ス.	1,875万円	セ.	2,000万円	ソ.	3,000万円	タ.	4,000万円

【問題3】

次の1～8の記述は、住宅総合保険について述べたものです。その内容が正しいものには○で、誤っているものには×で、それぞれ答えてください。

1. この保険では、火災によって保険の対象に生じた損害は保険金の支払い対象となるが、この損害には消防または避難に必要な処置によって保険の対象に生じた損害は含まれない。
2. この保険では、水道管または水管の凍結による破裂によって保険の対象である建物に損害が生じた場合、「破裂・爆発（気体または蒸気の急激な膨張を伴う破壊またはその現象）」による損害として、損害保険金の支払いの対象となる。
3. この保険では、家財を保険の対象とし、保険証券記載の建物内にあった預貯金証書が盗まれた場合、保険契約者または被保険者が盗難を知った後、ただちに預貯金先あてに被害の届出をし、かつ、盗難にあった預貯金証書により預貯金口座から現金が引き出された事実があったことが保険金支払いの条件となる。
4. この保険では、被保険者の運転する車両が保険の対象である建物に衝突し、その建物の外壁を破損させた場合、その損害は保険金支払いの対象となる。
5. この保険では、稿本、設計書、図案は、保険証券に明記しなければ保険の対象に含まれない。
6. この保険では、野積みの動産は保険の対象に含まれる。
7. この保険では、雪災の事故により保険の対象に損害が生じた場合、保険契約者または被保険者が損害の発生および拡大の防止のために必要または有益な費用を支出したときでも、損害防止費用は支払われない。
8. 保険期間の途中で、保険の対象が譲渡されたことにより保険契約が失効となる場合、保険会社は未経過期間に対し、日割をもって計算した保険料を返還する。

【問題4】

火災保険の価額協定保険特約に関する次の記述の正誤の組合せとして、最も適切なものを下の選択肢から1つ選び、その記号を答えてください。

1. この特約は、普通火災保険契約（工場物件）に付帯することができる。
2. この特約では、保険の対象である建物が火災により保険価額の10%に相当する損害を被ったときは、損害保険金に上乗せして特別費用保険金が支払われる。

《選択肢》

- ア. 1および2ともに正しい。
- イ. 1は正しいが、2は誤っている。
- ウ. 1は誤っているが、2は正しい。
- エ. 1および2ともに誤っている。

【問題5】

次の1～8の記述は、「地震保険に関する法律」に基づく地震保険について述べたものです。その内容が正しいものには○で、誤っているものには×で、それぞれ教えてください。

なお、本問においては、契約始期日および地震発生日は2017年1月1日以降であることを前提とします。

1. この保険では、通貨や預貯金証書は生活用動産として保険の対象に含まれるが、有価証券、印紙および切手は保険の対象に含まれない。
2. この保険は、主契約である火災保険契約に原則自動付帯であるため、主契約が地震保険の対象物件であるときは、保険契約者から地震保険を付帯しない旨の申し出がない限り、主契約と同時に契約される。
3. この保険では、商品、営業用什器・備品その他これらに類するものは、保険の対象に含まれない。
4. この保険では、建物の主要構造部の損害の額には、損害が生じた建物を原状回復するため地盤等の復旧に直接必要とされる最小限の費用は含まれない。
5. この保険では、地震が生じた後における事故の拡大防止または緊急避難に必要な処置によって保険の対象に生じた損害は、この保険で補償される損害には含まれない。
6. 地震の際の洪水等の水災により、建物が床上浸水または地盤面より45cmを超える浸水を被った結果、建物に損害が生じた場合で一部損に至らないときには、その建物を一部損とみなして保険金が支払われる。
7. この保険では、地震の際に、保険の対象である生活用動産が紛失した場合、その損害は保険金の支払対象となる。
8. この保険では、区分所有建物において、専有部分が居住の用に供されない場合、その共用部分の共有持分については、保険の対象とすることはできない。

【問題6】

Aさんは、自分の住居専用建物と同建物内収容の生活用動産（家財）を保険の対象として、住宅総合保険契約に「地震保険に関する法律」に基づく地震保険契約を付帯して締結していたところ、地震による火災でこの建物および生活用動産（家財）が損害を被りました。保険契約の内容および損害の状況は次のとおりです。

この場合に支払われる次の1～3の保険金について、下の選択肢から最も適切な金額をそれぞれ1つずつ選び、その記号を教えてください。

なお、本間においては、契約の始期日および地震発生日は2017年1月1日以降であることを前提とします。また、算出した保険金の額に1万円未満の端数が生じた場合には、千円の位を四捨五入して万円単位で教えてください。

〔保険契約の内容〕

	住宅総合保険		地震保険	
	建物	生活用動産（家財）	建物	生活用動産（家財）
保険金額	3,000万円	1,000万円	1,500万円	500万円

（注）地震発生時のこの建物および生活用動産（家財）の保険価額は、いずれも主契約である住宅総合保険契約の保険金額と同額とします。

〔損害の状況〕

	建物	生活用動産（家財）
損害額	900万円	600万円

（注）建物の焼失床面積は考慮不要とし、建物の損害額は、地震に起因した火災による地震保険における主要構造部の損害額とします。

1. 地震保険から建物の損害に対して支払われる保険金はいくらになりますか。
2. 地震保険から生活用動産（家財）の損害に対して支払われる保険金はいくらになりますか。
3. 主契約である住宅総合保険から建物および生活用動産（家財）の損害に対して支払われる地震火災費用保険金は合計でいくらになりますか。

《選択肢》

ア. 30万円	イ. 100万円	ウ. 150万円	エ. 200万円
オ. 240万円	カ. 270万円	キ. 300万円	ク. 350万円
ケ. 400万円	コ. 450万円	サ. 500万円	シ. 600万円
ス. 800万円	セ. 1,000万円	ソ. 1,500万円	タ. 3,000万円

【問題7】

「損害保険の保険金支払に関するガイドライン」に関する次の記述の適切・不適切の組合せとして、正しいものを下の選択肢から1つ選び、その記号を答えてください。

1. 損害保険会社は、保険契約者のセンシティブ情報（保健医療等）を取得した場合、保険金支払いに関する事案で、かつ、真に業務上必要な情報であれば、保険契約者本人の同意がない場合でも当該情報を利用または第三者に提供することができる。

2. 損害保険会社は、保険契約者等が保険金（費用保険金等を含む）の請求を取り下げる意向である場合は、損害保険会社において理由を具体的に確認し、取り下げ理由、確認を行った日付、方法、担当者名および確認先等の事実を確実に記録する。

《選択肢》

- ア. 1および2ともに適切である。
- イ. 1は適切であるが、2は不適切である。
- ウ. 1は不適切であるが、2は適切である。
- エ. 1および2ともに不適切である。

【問題 8】

次の 1～6 の記述は、新種保険について述べたものです。その内容が正しいものには○で、誤っているものには×で、それぞれ答えてください。

1. 建設工事保険では、建物の基礎工事、付帯工事のみを施工する工事は契約対象から除外される。
2. 機械保険では、従業員または第三者の取り扱い上の拙劣、悪意または過失によって保険の対象に生じた損害は保険金支払いの対象とならない。
3. 動産総合保険では、加工（修理を除く）または製造中の動産は保険の対象とはならない。
4. 組立保険では、建物の内・外装工事は保険の対象となる工事から除外される。
5. 賠償責任保険（普通保険約款）では、被保険者の同居（または同一世帯）の親族に対する賠償責任は保険金支払いの対象とはならない。
6. 土木工事保険では、保険の対象の設計の欠陥によって生じた損害は保険金支払いの対象となる。

【問題9】

「自動車保険の対物賠償保険」に関する次の記述の正誤の組合せとして、正しいものを下の選択肢から1つ選び、その記号を答えてください。

1. この保険の保険金請求権は、保険金請求権が発生した時の翌日から起算して3年を経過した場合は、時効により消滅する。

2. この保険では、被害者の損害賠償額の直接請求と被保険者の保険金の請求とが競合した場合、損害保険会社は被保険者に対して優先して保険金を支払う。

《選択肢》

- ア. 1および2ともに正しい。
- イ. 1は正しいが、2は誤っている。
- ウ. 1は誤っているが、2は正しい。
- エ. 1および2ともに誤っている。

【問題 10】

次の1～6の記述は、保険価額の評価について述べたものです。その内容が正しいものには○で、誤っているものには×で、それぞれ答えてください。

1. 保険価額のある火災保険契約や車両保険契約においては、損害額の評価は保険価額の評価ということになるが、保険法では、損害発生の日および時を基準とした具体的な損害額算出方式が規定されている。
2. 耐火構造の病院、ホテル、劇場等の特殊建築物では、付帯設備費割合が総工事費に対して相当の割合に達するものがあるため、評価に際しては、坪単価で計算することが望ましい。
3. 家財の再調達価額の評価に当たっては、いくつかのモデル家庭の家財を想定し、それに対する対象家庭の家族構成と生活程度の差を考慮すれば、大づかみながら家財の一般的な評価が可能となる。
4. 評価時点における機械の経年減価額（再調達価額×減価率）は、実務経験に照らして評価するよりも、客観性が高い企業会計上の減価償却方法で評価する。
5. 営業用什器・備品は、いずれも短期的な消費財であるため、通常、個々の減価率は同率となる。
6. 毎月棚卸をしていない企業の商品を評価する場合、直近の決算時の「貸借対照表」の商品、または「損益計算書」の期末棚卸高に貯蔵品等の金額を加算したいずれかを基準とする。

【問題 11】

次の1～8の記述は、損害保険契約に関する法律知識について述べたものです。その内容が正しいものには○で、誤っているものには×で、それぞれ答えてください。

1. 保険契約は、保険者が一定の事由が生じたことを条件として保険給付を行うことを約し、保険契約者がその対価として保険料を支払うことを約する双務契約である。
2. 保険契約の一般的な契約内容を定めた保険約款の作成や変更に関しては、金融庁長官の認可または金融庁長官への届出が義務付けられている。
3. 保険給付を請求する権利は、3年間行わないとき、時効によって消滅する。
4. 被保険利益は、「金銭に見積もることができる利益」でなければならない。
5. 「残存物代位」とは、保険者が保険の目的物が全て滅失した場合に保険給付を行った時に、保険の目的物に関して、被保険者が有する所有権その他の物権が被保険者から保険者に移転することをいう。
6. 保険者が損害を補責任を負う要件の1つとして、「保険期間中に保険約款で定める保険事故が発生すること」が挙げられる。
7. 保険法では、保険契約者が危険物を使用することを告知しないで火災保険契約を締結したため、保険者が告知義務違反によってその保険契約を解除した場合、契約の解除前にその危険物の引火が原因で発生した火災による損害に加え、危険物の引火に関係のない損害もてん補されないことになっている。
8. 保険約款では、損害発生の通知義務違反があった場合、保険金の削減払として、保険者は保険契約者または被保険者に損害賠償請求ができると認められる額を差し引いて保険金を支払うと規定している。

【問題 12】

次の1～8の記述は、損害賠償に関する法律知識について述べたものです。その内容が正しいものには○で、誤っているものには×で、それぞれ答えてください。

1. 「共同不法行為者」には、自らは不法行為を実行していない教唆した者や幫助した者も含まれる。
2. 不法行為責任が成立するためには損害が発生していることが条件であるが、その損害は財産的損害のみに限定される。
3. 債務不履行による損害賠償請求権は、5年間行使しないとき、時効により消滅する。
4. 金銭の給付を目的とする債務不履行の場合、債務者は債務の不履行が不可抗力によるものであることを証明できれば、損害賠償責任を免れることができる。
5. 民法では、損害賠償の方法は原則として金銭によるべきものと定めているが、例外的に原状回復の請求が認められる場合として「名誉毀損」がある。
6. 裁判所は、不法行為の被害者にも過失がある場合、過失相殺により損害賠償額の調整を行うことができる。
7. 債務の履行はなされたが、それが不完全な給付の場合、「履行遅滞」となる。
8. 製造業者等が引き渡した製造物の欠陥により、生命・身体または財産を侵害された場合、被害者が製造物責任法に基づき製造業者等から損害賠償を受けるためには、製造業者等の過失、当該製品の欠陥、損害の発生、欠陥と損害の因果関係の4事項を立証する必要がある。

【問題 13】

個人情報保護法に関する次の記述の正誤の組合せとして、最も適切なものを下の選択肢から1つ選び、その記号を答えてください。

1. 個人情報取扱事業者は、法令に基づく場合や人の生命・身体または財産の保護のために必要がある場合で本人の同意を得ることが困難であるときでも、特定された利用目的の達成に必要な範囲を超えて個人情報を取り扱うことができない。
2. 個人情報取扱事業者は、個人情報取扱事業者の権利または正当な利益を害するおそれがある場合であっても、個人情報を取得したときには速やかにその利用目的を本人に通知または公表しなければならない。
3. 国の機関や地方公共団体は、この法律における個人情報取扱事業者には該当しない。

《選択肢》

- | | | | |
|----|----------|----------|----------|
| ア. | 1. 正しい | 2. 正しい | 3. 誤っている |
| イ. | 1. 正しい | 2. 誤っている | 3. 正しい |
| ウ. | 1. 正しい | 2. 誤っている | 3. 誤っている |
| エ. | 1. 誤っている | 2. 正しい | 3. 正しい |
| オ. | 1. 誤っている | 2. 正しい | 3. 誤っている |
| カ. | 1. 誤っている | 2. 誤っている | 3. 正しい |

【問題 14】

次の1～7の記述は、リスクマネジメントについて述べたものです。その内容が適切なものには○で、不適切なものには×でそれぞれ答えてください。

1. 地震に対するリスク・コントロールとして、「建物の耐震化」と「緊急時計画の策定」の2項目が挙げられる。
2. リスク・コントロールにおいて「リスクの分散」をすると、損害の発生頻度は軽減されるが、損害の規模が増加し、リスクを多く分散するほど損害額も増加する傾向がある。
3. 純粹リスクとは、「損失を被る可能性」だけがあるリスクのことを指し、各種オペレーショナル・リスクは純粹リスクに分類される。
4. 代替的なリスク移転 (ART) の手法には、「天候デリバティブ」や「地震デリバティブ」、「キャプティブ」などがある。
5. ハザード (hazard) とは、火災、爆発、盗難などの「損害発生の原因」をいう。例えば、「モラルハザード」は、保険金詐取を目的とした放火・殺人や保険金の不正請求など、保険契約者の倫理の欠如に基づくハザードである。
6. 情報セキュリティ対策のうち、「物理的対策」は、重要情報を取扱うサーバ室を対象とした部外侵入者に対する対策であり、自然災害・事故に対する対策は含まれない。
7. オペレーショナル・リスクには、個人情報情報の漏洩やウイルス感染等の情報リスクも含まれる。

【問題 15】

次の1～4の取引について、下の勘定科目・金額を用いて仕訳を行い、勘定科目・金額は下の選択肢から最も適切なものをそれぞれ1つずつ選び、その記号を答えてください。

なお、勘定科目・金額の選択肢は、必要に応じて何度使用しても構いません。

1. 取引銀行から現金¥150,000を借り入れた。なお、利息15%（年利）は返済のときに支払うことになっている。
2. 電気代¥25,000とガス代¥20,000が当座預金口座から引き落とされた。
3. 貸付金¥500,000の返済を受け、その利息¥80,000とともに、先方振出しの小切手で受け取った。
4. C商店に売り渡した商品に一部品違いがあり、¥100,000の値引きをし、その金額は売掛金から差し引くこととした。

《勘定科目 選択肢》

ア. 借入金	イ. 当座預金	ウ. 資本金	エ. 支払家賃	オ. 受取利息
カ. 買掛金	キ. 商品売買益	ク. 貸付金	ケ. 受取家賃	コ. 現金
サ. 通信費	シ. 水道光熱費	ス. 備品	セ. 消耗品費	ソ. 商品
タ. 売掛金				

《金額 選択肢》

a. 10,000円	b. 20,000円	c. 22,500円	d. 25,000円
e. 30,000円	f. 45,000円	g. 50,000円	h. 80,000円
i. 100,000円	j. 150,000円	k. 172,500円	l. 200,000円
m. 300,000円	n. 500,000円	o. 580,000円	p. 600,000円